

平成29年3月6日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《3月度農場便り》

「自然栽培勉強会存続の危機、二者択一と折り合い」

まだ朝夕は寒さの厳しい八ヶ岳南麓でも農は本格的シーズンを迎えています。平素は農場に多大なご協力を頂き心より感謝申し上げます。昨日は今年初めての田んぼでの仕事を行いました。「畔切り」といって田んぼの畔に沿い鍬で掘り起こし溝を作っていくのです。現在は水が漏れないように畔を塗るということ無くなりましたがトラクターで耕運する前に田んぼの周囲を整えるために必要な作業なのです。これも専用の農機で行えば簡単ですが田んぼの観察という点では手作業も効果があります。ところで創設にも関わり、奥が深く毎年が試行錯誤の自然栽培をお互いに勉強し合おうと準備段階から7年間続いてきた木村式自然栽培勉強会が1月末の年次総会でいきなり執行部から勉強会への参加者も少なく、役職者の負担も多く、会の役割は終わったのではないかと、今限り解散するとの動議が出されました。あまりの唐突さに驚くと同時に何故性急に解散するか否かの二者択一で結論を求めるのか。またこの勉強会は執行部のための会ではなく、40名ほどの会員の為の会であるにも拘らずいきなり総会での動議は無いでしょうと、今からでも遅くないので臨時総会を開き会員の意見集約してみてもどうかと提案、それから1か月、2回の検討会が開かれました。会員の半数ほどが参加した最初の検討会で小生は「老体に鞭打って出来る範囲の中で専門外の果樹栽培を除き稲作、畑作の勉強会は回数が少なくなっても計画、実行していく、これは自身の為でもあり、難題の多い自然栽培を実践する者にとり課題解決に必要である、一人では一つの課題を解決するのに一年、十人の仲間がいれば十の課題が一年で解決できる可能性がある」と禍根を残したくない一心で発言しました。一方、今はネット社会、ネットで必要に応じて賛同する者同士が緩やかなコミュニティとして活動していきたいとの意見も出て、またまた二者択一の賛否を問う方向へと流れる、これには自然栽培を趣味的に学びたい会員と自然栽培で暮らしを立てる会員との自然栽培への温度差も原因になっている。結果的には勉強と交流の合わせ技で存続の方向に纏まり、新たな執行部も立ち上がり一件落着。人と人との関係性までがネットで構築でき、さらに緩やかなコミュニティまで形成できるという勘違いが人の世の面倒くささを避ける傾向になっているんだと痛感した次第です。そんな中、多様な意見を一つにまとめようと骨を折る若者たちもいることに安堵すると同時に自然栽培の先も見えた出来事でした。

・真黒茄子の播種 (3月6日)



・育苗中のサニーレタス (3月7日)



メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017